

2025 年度

農村計画学会全国大会（旧秋期大会）

プログラム

日時：2025 年 11 月 29 日～11 月 30 日

会場：山形大学

農村計画学会

## 目 次

1.	プログラム .....	1
2.	発表方法について .....	9
(1)	口頭発表 .....	9
(2)	ポスター発表 .....	9
3.	会場案内 .....	10
(1)	周辺地図 .....	10
(2)	館内地図 .....	11
(3)	会場地図 .....	12
4.	学会賞表彰式・受賞者記念講演 .....	13
5.	開催校からのご案内 .....	14
(1)	昼食について .....	14
(2)	休憩室について .....	14
(3)	懇親会について .....	14

\*梗概集については別紙にて作成し、HP に掲載します（会場での配布は行いません）。ただし、農村計画学会論文集に採用された論文・報告（査読付）（プログラム内の①）については掲載しておりませんので、J-STAGE でご確認ください。

# 1. プログラム

■11月29日（土）

時 間	第 1 会場 301	第 2 会場 201	第 3 会場 202	第 4 会場 101 第 5 会場 102
10:00-10:15	開会式			
10:15-10:30				
10:30-11:50	口頭発表 1-1 農村の歴史的変化とこれ から	口頭発表 1-2 心理的資本と行動変容	口頭発表 1-3 国土管理と生態系への影 響	
11:50-13:00			企画セッション 1	ポスター掲示 (各自掲示)
13:00-14:20	口頭発表 2-1 地域社会と地域差	口頭発表 2-2 経営と組織	次世代による地域の“決 断”ワークショップ(後編)	
14:20-14:30				
14:30-15:50	口頭発表 3-1 観光まちづくり	口頭発表 3-2 外部人材とネットワーク	口頭発表 3-3 合意形成と協働	
15:50-16:00				
16:00-17:20	口頭発表 4-1 地域資源の可能性	口頭発表 4-2 情報とデジタル活用		

\* 休憩室は 1・2 階の学生ラウンジ、3 階の 302 号室にご用意しています。

\* 懇親会は 18:00～20:00 会場：東京第一ホテル鶴岡

■11月30日（日）

時 間	第 1 会場 301	第 2 会場 201	第 3 会場 202	第 4 会場 101 第 5 会場 102
9:00-10:20	企画セッション 2 ルールイノベーション の出発点	企画セッション 3 日本における「農村犯罪 学の可能性」		ポスターA コアタイム
10:20-10:30				
10:30-11:50	企画セッション 4 農村を支える仕組みをい かに活用するか	企画セッション 5 農村振興政策に係る真の 自治体裁量度の計測と政 策への示唆		ポスターB コアタイム
11:50-13:00		理事会・評議員会		
13:00-13:50	表彰式・受賞者講演会			
13:50-14:00	閉会式			

\* 休憩室は 1・2 階の学生ラウンジ、3 階の 302 号室にご用意しています。

## ■第1セッション 10:30-11:50

### 口頭発表 1-1 農村の歴史的変化とこれから

コーディネーター：服部俊宏（明治大学）

1-1-1	日本農村計画研究のテーマ変遷(1982-2025) ーARP 抄録コーパスを対象とした縦断的テキストマイニングー 鬼塚 健一郎（京都大学大学院）他 1 名, ②
1-1-2	Pre-Afforestation Land-Use of post-WWII Plantation Forests in Japan ーInsights from the 1960 World Census of Agriculture and Forestryー 上野 竜大生(九州大学大学院), ①
1-1-3	中山間地域における農業エコシステム構築のあり方に関する検討 ー中間支援機能に着目してー 神尾 真大郎(宮城大学), 他 4 名, ②
1-1-4	農村地域の中心部と山間部の現代の公共的な空間のあり方 ー山形県飯豊町を対象としてー 植田 悠斗, 他 1 名, ②

### 口頭発表 1-2 心理的資本と行動変容

コーディネーター：廣瀬裕一（農研機構）

1-2-1	農村における心理的資本の役割 ーWeb アンケート調査結果を用いた探索的分析ー 小川 景司(神戸大学), 他 1 名, ②
1-2-2	地域と自然への愛着が農業従事者のワーク・エンゲージメントに与える影響 ー心理的資本を媒介としてー 法理 樹里(農林水産政策研究所), 他 2 名, ②
1-2-3	役員の心理的資本が地域資源管理活動に及ぼす影響 ー兵庫県の多面的機能支払交付金活動組織を対象としてー 川除 由紗(神戸大学), 他 2 名, ②
1-2-4	農作業安全知識の創出・共有プロセスの特性と課題 関谷 翼(東京農工大学大学院), 他 2 名, ②

### 口頭発表 1-3 国土管理と生態系への影響

コーディネーター：山本忠男（北海道大学）

1-3-1	中山間集落の農地保全に向けた水系からのアプローチ ー岡山県真庭市における地域管理構想の策定を通じてー 新田 直人(農林水産省農林水産政策研究所), ①
1-3-2	森林との距離を考慮した条件不利農地の特定と管理方法の違いによる生態的土地生産力への影響 ー宮城県の水田を事例としてー 林 岳(農林水産政策研究所)他 3 名, ②
1-3-3	The Impact of Farmland Consolidation Projects on Agricultural Structural Adjustment in Japan 陳 宇(明治大学農学研究科), 他 1 名, ②
1-3-4	佐渡市における農地の利用低下と生態系サービスへの影響の空間評価 石黒 平(東京大学大学院), 他 1 名, ②

①は査読付論文発表, ②はその他の発表

## ■第2セッション 13:00-14:20

### 口頭発表 2-1 地域社会と地域差

コーディネーター：一ノ瀬友博（慶応義塾大学）

2-1-1	基礎自治体への農業高校の移管と存続による地域への影響について ー五條市立西吉野農業高校を事例としてー 中上 詩野(徳島大学)他 2 名, ②
2-1-2	地域社会における流域治水の担い手の検出 ー宮城県大崎市鹿島台地域を事例としてー 錦織 彩乃(東京農工大学大学院), ②
2-1-3	沿岸地域住民における気候変動適応意識の地域差分析 ー海洋環境の変化への認識と行動意図に着目してー 包 薩日娜(国立環境研究所), 他 3 名, ②
2-1-4	太陽光パネルに関する条例内容とパネル設置状況・地域的特徴との関連分析 石井 裕樹(筑波大学), 他 1 名, ②

### 口頭発表 2-2 経営と組織

コーディネーター：法理樹里（農林水産政策研究所）

2-2-1	「農村の自己組織化」の構造 ー秋田県の GB ビジネス事業を事例にー 宮田 真由(秋田県立大学), ②
2-2-2	農村女性起業におけるグループ経営の持続性に関する一考察 ーすし工房なばなを事例としてー 藤原 ふゆ(東京農業大学大学院), 他 1 名, ②
2-2-3	寺院の潜在資源としての「物語」を活用した地域産品開発の取組プロセス ー滋賀県東近江市の百済寺樽プロジェクトを事例としてー 原田 弘之(大阪成蹊大学), ②
2-2-4	中国の主要地域における地理的表示果物の購買行動メカニズム 楊 晴晴(山口大学大学院), ②

①は査読付論文発表, ②はその他の発表

## ■第3セッション 14:30-15:50

### 口頭発表 3-1 観光まちづくり

コーディネーター：田口太郎（徳島大学）

3-1-1	農村の観光まちづくりの継続的活動を可能とする人材ブリコラージュ型活動体制の検証 ー岐阜県中津川市加子母地区を事例にー 佐藤 彩生(株式会社農林中金総合研究所), ①
3-1-2	栗島浦村におけるグリーン・ツーリズムの現状と課題 ー観光客調査と民宿経営者の声からみる「地域協働型 GT」への展開ー 王 イ雪(新潟食料農業大学), 他 1 名, ②
3-1-3	トラベルコスト法による森林レクリエーション機能の評価 ー都市部と地方部の連携による整備森林を対象にー 石 佳凡(早稲田大学大学院), 他 1 名, ②
3-1-4	農業体験農園におけるモニタリングシステムの導入効果 ー圃場カメラと環境センサの活用ー 曾我 京佑(東京都農林総合研究センター), 他 1 名, ②

### 口頭発表 3-2 外部人材とネットワーク

コーディネーター：中塚雅也（神戸大学）

3-2-1	地域外人材による中山間地域の持続的な生活をめぐって ー石川県小松市西俣町を事例にー 小國 美貴(公立小松大学), ②
3-2-2	地域おこし協力隊制度における隊員のサポート構造の解明 桑島 直生(山形大学大学院), 他 2 名, ②
3-2-3	過疎地域における移住者のパーソナルネットワークの実態 ー北海道下川町の事例ー 黒田 峻平(北海道大学), ②
3-2-4	離島における若者移住者の定住プロセスと要因に関する研究 ー伊豆大島を対象としたヒアリングに基づく分析ー 朝賀 史織(筑波大学), 他 1 名, ②

### 口頭発表 3-3 合意形成と協働

コーディネーター：小川景司（神戸大学）

3-3-1	地縁組織・行政・NPO による三者連携はどのように構築されたのか？ ー石狩市浜益区の事例ー 川本 沙耶(北海道大学), ②
3-3-2	地域自治システム再編の合意形成に向けた診断手法の構築 ー主要組織の役割・負担感・他組織との関係に着目してー 内野 僚太(東京農工大学), 他 3 名, ②
3-3-3	Most Significant Change 手法を用いた地域協働活動の参加型・質的評価とその多面的効果 時任 美乃理(京都大学), ①

①は査読付論文発表, ②はその他の発表

## ■第4セッション 16:00-17:20

### 口頭発表 4-1 地域資源の可能性

コーディネーター：藤崎浩幸（弘前大学）

4-1-1	津波による被災地における地域資源に関する研究 ー釜石市唐丹地区における公民館だよりを通じた考察ー 郝 悠然(日本女子大学), 他 1 名, ②
4-1-2	コミュニティガーデンによる在来作物継承の可能性 ー山形県鶴岡市小堅地区の「波渡なす」を事例にー 佐藤 直稀(山形大学), 他 2 名, ②
4-1-3	農村住民向け市民農園の元利用者による家庭菜園としての農地利用 ー長野県箕輪町を事例としてー 鏡 平(信州大学大学院), 他 1 名, ②
4-1-4	生業複合における昆虫養殖の価値に関する研究 ー中央タイのコオロギ養殖を事例にー 阪本 平, 他 3 名, ①

### 口頭発表 4-2 情報とデジタル活用

コーディネーター：鬼塚健一郎（京都大学）

4-2-1	都市農業経営における情報管理・活用の実態と事業多角化による影響 保坂 三仁(東京都農林総合研究センター), 他 2 名, ①
4-2-2	スマート農業導入が農村集落に与える影響 ーその 2 施設・土地利用及び営農形態の視点からー 佐藤 琉人(仙台高等専門学校専攻科), 他 1 名, ②
4-2-3	衛星コンステレーションを用いた水稻の収穫時期と収穫手法の推定 宮内 洋輔(京都大学大学院), 他 3 名, ②
4-2-4	日本版 SSP にもとづく高解像度土地利用予測とシナリオ別の農地分布 黄 琬恵(東京大学), 他 4 名, ②

①は査読付論文発表, ②はその他の発表

## ■ポスターセッションA コアタイム 9:00-10:20

p-1-1	食品企業を起点とする農産物の新規産地形成の促進要因 ー京都におけるレモンの新規産地形成の事例に着目してー 雨宮 愛(早稲田大学), 他 2 名, ②
p-1-2	A Restructuring Method of Scattered Village in Mountainous Areas based on an Association Network System 任 毓琳(西安交通大学), 他 2 名, ②
p-1-3	韓国農村におけるアソシエーション型共同体の実態と意義 ー韓国忠清南道洪城郡長谷面・洪東面を事例としてー 和田 明夏(宮崎大学), 他 1 名, ②
p-1-4	甲突川流域における水田の多面的機能と流域治水への寄与 ー棚田を含む流域内の水田の Eco-DRR 観点からの評価ー 松田 明子(鹿児島大学), 他 1 名, ②
p-1-5	無人駅の活用形態と特徴 ー新聞記事データベースを用いた事例分析ー 玉手 那堯(弘前大学), 他 1 名, ②
p-1-6	地域に根ざした学習を通じた地元出身者の主体性形成過程の分析 ー北海道浦幌町うらほろスタイルを事例としてー 新里 早映(一般社団法人十勝うらほろ楽舎), 他 1 名, ②
p-1-7	自然とのかかわり方が自然の関係的価値の評価と自然に対する選好に与える影響 齋藤 智美(東京大学), 他 2 名, ②
p-1-8	千葉県富里市における谷津の認知度と環境保全活動への関心に関する実態調査 戸田 祐希(日本大学大学院), 他 1 名, ②
p-1-9	通勤移動を活用した農産物運搬の成立可能性 ー潜在的協力者の探索的アンケート調査からー 奥野 智也(神戸大学), 他 4 名, ②
p-1-10	地域公共交通再編における乗合タクシー運行の実態と課題 ー青森県弘前市「相馬地区予約型乗合タクシー」を事例にー 蝦名 希美(弘前大学), 他 1 名, ②
p-1-11	徳島県における藍染産業の持続可能性と課題 吉見 大樹(明治大学大学院), 他 1 名, ②
p-1-12	促成山菜栽培農家の生産実態から見た産地存続の可能性 ー山形県最上地域を事例としてー 劉 暢(岩手大学大学院), 他 4 名, ②
p-1-13	営農型太陽光発電に関する農業委員会総会議事録の分析 ー東北地方 4 県を対象にー 齋藤 光(山形大学), 他 2 名, ②

①は査読付論文発表, ②はその他の発表



## ■ポスターセッションB コアタイム 10:30-11:50

p-2-1	農村計画学会災害対応委員会の活動の概要 ー災害対応委員会の輪島市南志見地区における取り組み その1ー 柴田 祐(熊本県立大学), ②
p-2-2	震災復興のための伴走支援の戦略と課題 ー災害対応委員会の輪島市南志見における取り組みーその2ー 広田 純一(NPO法人いわて地域づくり支援センター), ②
p-2-3	能登半島地震・奥能登豪雨における被災集落の現状と課題 ー災害対応委員会の輪島市南志見地区における取り組み その3ー 山道 未貴(熊本県立大学), ②
p-2-4	被災地住宅再建プロセスにみる住民と行政の交錯 ー災害対応委員会の輪島市南志見地区における取り組み その4ー 鈴木 孝男(新潟食料農業大学), ②
p-2-5	令和6年能登半島地震後の地域組織ネットワークの可視化 ー災害対応委員会の輪島市南志見地区における取り組み その5ー 山崎 真美子(東京科学大学), 他1名, ②
p-2-6	農作物鳥獣被害対策における環境整備の実施の要因分析 ー鳥獣被害防止計画に関するWebによる悉皆的調査よりー 迫田 晃太郎(茨城大学大学院), 他2名, ②
p-2-7	衛星Wi-Fiを活用した大規模柑橘団地での情報通信環境整備の実証 山田 寛大(三重大学大学院), 他5名, ②
p-2-8	衛星データによる圃場の排水性評価マップの地域計画策定への実用性調査 ー三重県三重郡菰野町千種地区における事例ー 篠原 健吾(農業・食品産業技術総合研究機構), 他1名, ②
p-2-9	シミュレーションによる農地集約の効率化効果の見える化 吉村 亜希子(農研機構), 他3名, ②
p-2-10	水田景観におけるトノサマガエル分布と生息数を決定する環境要因 ー農法, 局所要因, および周辺土地利用の影響ー 帯島 広夢(金沢大学大学院), 他1名, ②
p-2-11	群馬県昭和村の扇状地上の防風林の変遷と保安林との関り 大澤 啓志(日本大学), ②
p-2-12	一般法人による農地所有権取得の可能性に関する一考察 ー特定法人による農地取得事業に対する自治体の評価を通じてー 工藤 行晴(東京農工大学), 他1名, ②
p-2-13	大学・地域連携へのCSA(Community Supported Agriculture)の導入可能性の検証 ー農学部学生・教職員を対象としたアンケート調査に基づいてー 大石 卓史(近畿大学), ①
p-2-14	大学・地域連携におけるCSA(Community Supported Agriculture)の実践が大学関係者に与える影響 ー近畿大学農学部と奈良県曽爾村による「そののわCSA」の取り組みを対象としてー 河邊 優作(近畿大学大学院), 他3名, ②

①は査読付論文発表, ②はその他の発表

## ■企画セッション

1	次世代による地域の“決断”ワークショップ(続編) 中島 正裕(東京農工大学)	11/29(土) 11:50~14:20 第3会場
2	ルーラルイノベーションの出発点ー山形県の挑戦ー 斎尾 直子(東京科学大学)	11/30(日) 9:00~10:20 第1会場
3	日本における「農村犯罪学」の可能性 ー農山村地域における犯罪と対策の実態報告ー 雨宮 護(筑波大学システム情報系)	11/30(日) 9:00~10:20 第2会場
4	農村を支える仕組みをいかに活用するか 服部 俊宏(明治大学農学部)	11/30(日) 10:30~11:50 第1会場
5	農村振興政策に係る真の自治体裁量度の計測と政策への示唆 ー新たな国と地方の役割分担を構想するー 荘林 幹太郎(総合地球環境学研究所研究部)	11/30(日) 10:30~11:50 第2会場

## 2. 発表方法について

### (1) 口頭発表

- ・ 1人あたりの発表時間：発表 13 分，質疑 6 分とします。
- ・ 会場には発表者自身で PC を持参し，会場のプロジェクターに接続してください。
- ・ 会場に用意されているプロジェクターの接続端子は「HDMI 端子」のため，持参する PC に HDMI 端子が附属されていない場合は，自身で変換アダプタ（USB Type C - HDMI Type A 等）を持参してください。
- ・ セッション開始前の休憩時間を利用して，各発表会場でスライドの動作確認を済ませてください。
- ・ セッション中はコーディネーターの指示に従ってください。

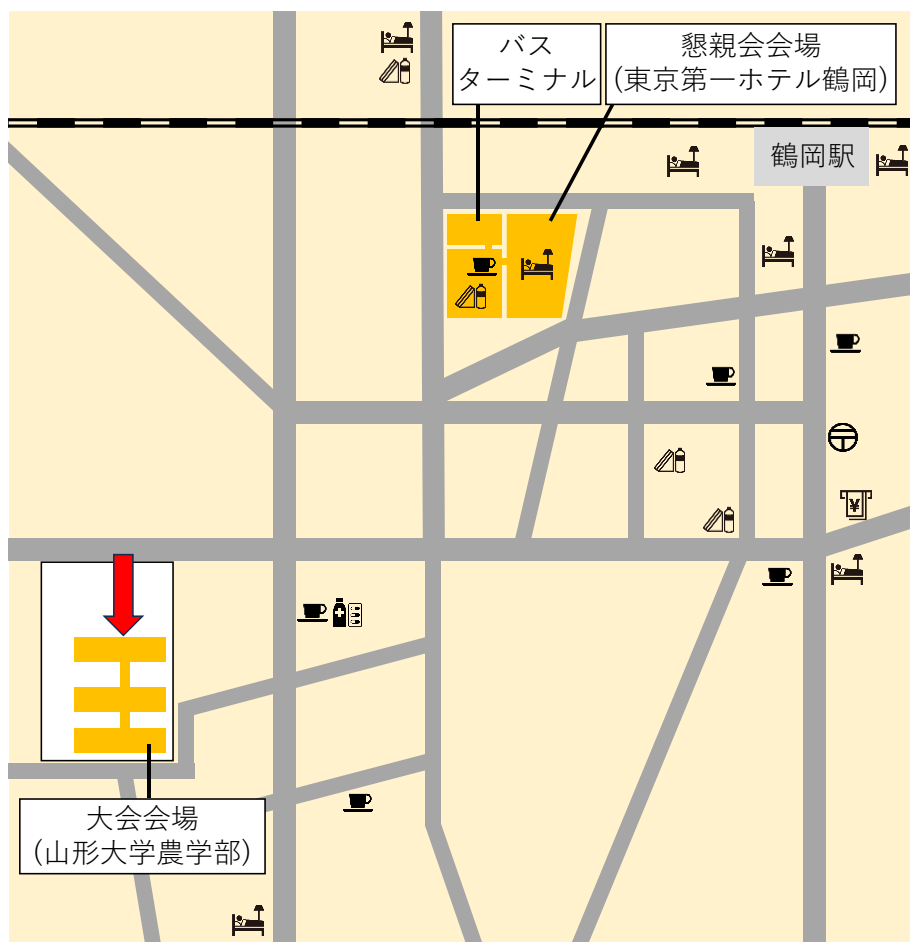
### (2) ポスター発表

- ・ ポスターは 11/29（土）13 時～17 時 20 分，または 11/30（日）8 時 30 分～9 時までの間に所定のパネルに展示してください。
- ・ 発表者は指定のコアタイム中はポスター前に常駐し，発表内容に関心を持った聴衆に対して自由に発表・質疑を行ってください。
  - ポスターAのコアタイム…11/30（日）9 時～10 時 20 分
  - ポスターBのコアタイム…11/30（日）10 時 20 分～11 時 50 分
- ・ コアタイム終了した後も 12 時 30 分までポスターを展示したままにし，その後，発表者が各自持ち帰ってください。

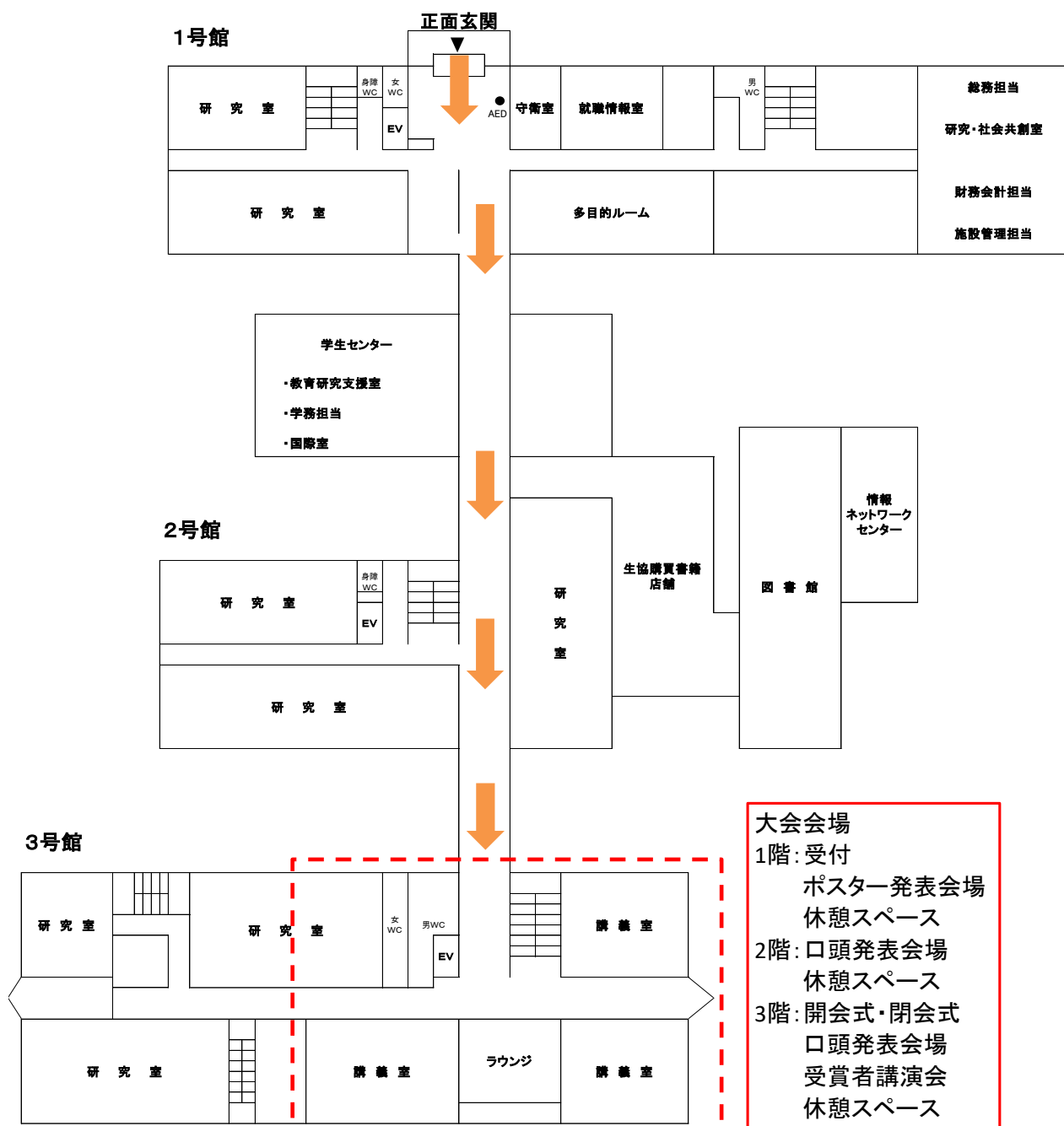
### 3. 会場案内

山形大学農学部 鶴岡キャンパス（〒997-8555 山形県鶴岡市若葉町 1-23）

#### （1）周辺地図



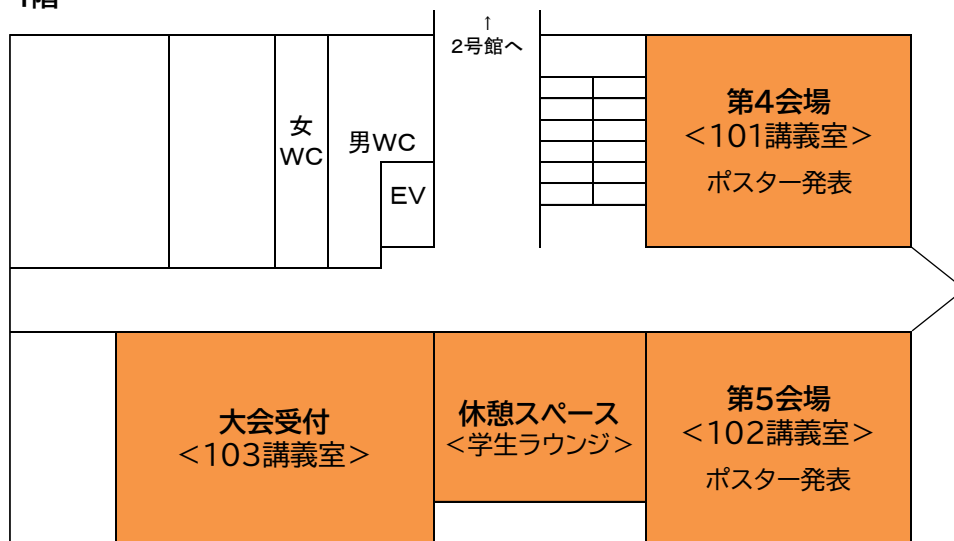
## (2) 館内地図



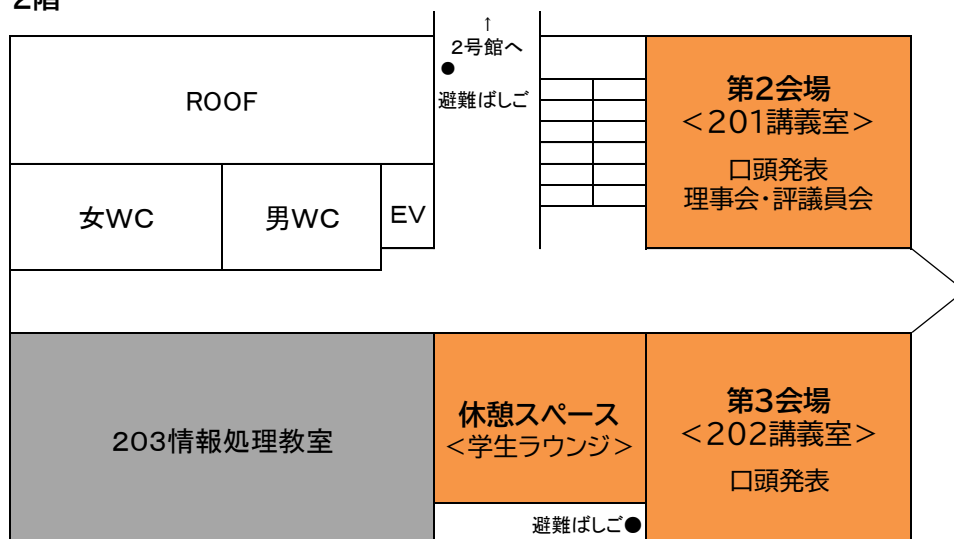
### (3) 会場地図

#### 3号館

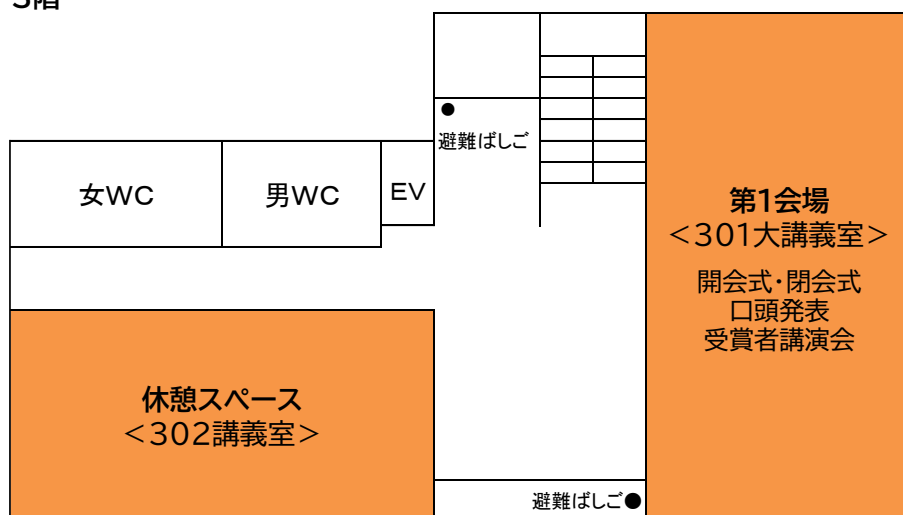
##### 1階



##### 2階



##### 3階



## 4. 学会賞表彰式・受賞者記念講演

1. 日時：2025 年 11 月 30 日（日） 13 時 00 分～13 時 50 分

2. 主催：表彰委員会

3. 受賞者：

### (1) 奨励賞

大垣宏介（株式会社平成建設）

「東日本大震災における津波被災漁業集落の震災前後の漁業実態変容と復興課題」

#### 【主な業績】

- ・ 大垣宏介，斎尾直子（2014）：東日本大震災津波被災漁村における復興の動向と課題-三陸沿岸漁村の震災以前の実態，被災・復旧状況，復興に向けた活動を対象とした広域・相対的分析-，農村計画学会誌，33(Special\_Issue)，197-202
- ・ 大垣宏介，斎尾直子（2016）：東日本大震災における津波被災集落の漁業実態変容と復興課題-岩手県・宮城県沿岸部における震災前後の広域・相対的分析と「通い漁業」実態の考察-，農村計画学会誌，35(Special\_Issue)，167-173
- ・ 大垣宏介，斎尾直子（2022）：震災前後 10 年間の漁業実態変容から見る東日本大震災津波被災集落の復興，日本建築学会計画系論文集，87(800)，1954-1963

### (2) ベストペーパー賞

井上果子（宮崎大学）

「人口安定型農山村小地域の特性にみる持続的地域の論理」

（農村計画学会論文集，4(1)，67-77）

中塚 雅也（神戸大学），小川 景司（神戸大学），平井 太郎 会員（弘前大学）

「農村版心理的資本尺度の開発」

（農村計画学会論文集，4(1)，27-33）

### (3) 優秀発表賞

\*大会当日に発表予定

## 5. 開催校からのご案内

### (1) 昼食について

学内には飲食店はありませんので、ご持参いただくか、周辺の飲食店をご利用ください。

### (2) 休憩室について

持参弁当等，1・2階の学生ラウンジ，3階の302号室で飲食可能です。ご自由にご利用ください。

### (3) 懇親会について

懇親会を次のとおり開催します。

日時：11月29日（土）18:00～20:00（受付開始 17:30～）

場所：東京第一ホテル鶴岡（山形県鶴岡市錦町2-10；2．会場案内（1）周辺地図を参照）

料金：事前申込み制（当日参加費 一般 6,000 円，学生 3,000 円）